

膵癌切除後の長期予後に関する研究

1. 研究の対象

2015年4月以降、当院の外科で膵癌に対して切除術を施行された方

2. 研究目的・方法

膵癌は予後不良な癌の1つであり、手術後1年以内の早期再発も50～60%と非常に高いといわれています。膵癌の進展には術前の炎症反応や低栄養状態が関与しており、予後に影響するとの報告もあります。今回、当科で膵癌に対して手術を施行された症例で術前の栄養状態や炎症マーカーと予後との関連性を解析します。またそれらを基盤とした予後を予測できる新たなバイオマーカーの検索を行うことを目的とします。

研究は、既存の診療記録より情報を収集し検証します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、身長、体重、併存疾患、既往歴、喫煙歴、ASA-PS、癌のステージ、癌の部位、術前胆道ドレナージの有無、術前化学療法の有無、術前血液生化学検査、腫瘍のステージ、術前化学療法の有無、手術情報、合併症の程度、病理組織学的所見、術後補助化学療法の有無、無再発生存期間、5年無再発生存率、全生存期間、5年全生存率 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院 外科 新田 英利 (研究責任者)

熊本市南区近見 5-3-1 TEL : 096-351-8000

以上